

1969.2-23

共産主義青年同盟結成準備大会

目次 序 共青の核心点

議案草案

Ⅰ 共青結成の現在の意義

Ⅰ 当面の情勢と政治組織方針

- (I) 10/21-東大日大-統一戦線、共青
- (II) 労働運動の転換とソビエト、共青
- (III) 青年運動の現状と共青
- (IV) 革命党をめぐり共産主義同盟と共青

Ⅱ 共青の政治的結集点

- (I) 世界一國同時革命の展望
- (II) 安保斗争を世界革命戦争への戦線とする
- (III) 安保斗争への労働戦線の三つ

Ⅲ 共青の組織について

Ⅳ 規約

共産主義青年同盟結成準備委員会

「手、殊大斗争はかかる」の限界を、①個別斗争
を、全人民的闘争から階級性をもって、②下からの共同
斗争機関を社会的斗争機関として、③全共斗、本然斗争
の結合、単一化、④上からの政策面決定を媒介として、⑤
或程度上を通じて資本陣営の統一と制度の解体、再編を具
現し、⑥別の中核を核とし、現在興った斗争は神田カルキ
エミタン斗争を媒介として、自らは個別斗争を超越した
論理と活動をもって、全国の労働者、学生、高校生、予
備校生の斗いをひき出し、結合させ、全人民に個別利害
とその抑を乗り越えさせるべきを暗示しつつある。だが個別
斗争の全人民的展開は、政治斗争の全人民的展開と深く
結合され、労働者階級の闘争は斗いの形成に引きつけられ
るべきである。この点始めて真正普遍的な全人民的政治斗

〔Ⅱ〕労働運動の分解、ソヴェイト運動、共青

の「殊大斗争」を創ることこそがソヴェイト、政治ソヴェイト、
階級別、諸防りの日間的利害対立を把握せんとする政治
領域に階級形成の階級高地創生の、ソヴェイト運動の前
提条件を獲得することの意味する。かかる階級形成の管
制高地は、又ソヴェイト国家と非和解的対立に、人民の
権利として實に普遍的な全人民的政治斗争に、権力打倒、
階級戦争を遂行する総合司令部をつた階級斗争の領域
に連なり、前進して行く。

オーストリア、反戦、全階級運動を基軸として、政策面は階級を
媒介に形成すべしとある反帝統一戦線は一環に組み込ま
れ、かつ、政治連帯、権力打倒、階級戦争を基軸として、下
からの要求と結合して、階級の日間的利害と把握した
形態で展開する全人民的斗争機関の地域性の確立として
その実体は形成すべしといはれたらう。

オーストリア、反戦の「上からの」上からの系列化を排し、
ソヴェイトを深くたいや成り全ゆるぎを結合する日帝打倒、
階級戦争の共斗機関としての「上からの」確立に、
つとめよう。

オーストリア、地区共斗機関を基軸として、階級、階級利害を把握
を結合して、ソヴェイト権力へと高められ、先進的活
動家々の全人民的立場にある統一組織は、階級を確立す
べしといはれたらう。
オーストリアの二階を通じて全人民的権力斗争を開始する

争に引き得る。その意味で、反戦、全階級の「上からの」結合
更に単一機関として「上からの」政策面決定は決定的であり、
階級別、階級を越えたる全人民的階級の組織化も同様である
⑤労働者、学生、高校生、予備校生の単一部隊、反とは、共青、社
会主義青年団の統一化を通じて階級階級の統合（ともい
い）により、殊大斗争は、階級ソヴェイト内、政治ソヴェイト、階級
階級別斗争の統合、の政治領域と、階級の成熟度を前提とし
て、反帝統一戦線のソヴェイトへの敷化と、それを支える
我々活動家々のソヴェイトの中核体としての全人民的政治部
隊（共青）の飛躍を現実的任務ものとし、かつ、その点を義務の
一つであるのだ。

には、かかる二階は労働運動の分解をソヴェイト運動と
再編する路線は媒介するにほかならぬ。同様に、
大斗争の進展に在りて、反戦、全階級の統一戦線は、全人民
的権力斗争への領域に引き進み、階級別斗争の階級別全人民
のものへと拡大し、ソヴェイト運動である。勿論、かかる
新しい領域創出を媒介に、階級階級を把握して、階級を把握
する諸条件は、一環に結合しつつある。

オーストリア、地区反戦の大家の展開は地域における階級的利
害を越え、従来の反戦斗争以上の深さをもたらし、階級
別運動と結合した地域共斗機関としての階級別地域性組
織の確立を基軸として、かつ、従来の階級別斗争の展開
対外的展開を基軸として、取揚反戦斗争の全人民的展開
の推進を果している。これを以て、階級化しては階級別
機関活動に対して、組合とは別個に階級別斗争の展開の斗争
機関を形成し、ソヴェイト権力打倒、管理に転化する。工場
委員会運動を基軸とした全人民的斗争機関の一環として創出す
るべき前提に、階級別斗争のソヴェイト運動である。

オーストリア、オーストリア、階級反戦の斗争は非結合した地区
反戦運動と、地域の階級別斗争の結合を媒介に
階級別、階級別斗争、階級別斗争の展開に對して、
階級別斗争の展開は、階級別斗争の展開を基軸として、
大衆、新出版部などの争戦を、占領、管理の階級別斗争を
現はさる如く、全人民的権力斗争を基軸として、

⑦ ロシア革命以後の現代過渡期世界における革命潮流、中間地帯論の修正をもせざる内容を保持してきている略を定めるためにあり、現代過渡期世界の運動法則をどのように定めるかを問われている。「労働者」国家の存在がおりつゝモレーニン「帝国主義論」の直接のめりては、より帝国主義の不均等発展、分裂抗争↓

帝国主義戦争をめぐり「単独帝国主義論」から「労働者」国家終焉のものが根本的に現代世界へ構造を変えたと判断し帝国主義の不均等発展↓対抗抗争そのものも決定する「超帝国主義論」「台同双論」「体制間矛盾論」が存在している。我々はこの二つの傾向を否

定する。現代帝国主義の危機は、一般的に経済危機としてではなく、過渡期世界の矛盾（前述した）より「労働者」国家の地理的拡大、強大化を媒介としてNATO-安保-反革命同盟が成立し、平時に於ても不断に「軍事」が問題となり、そのことを軸に諸階級階級の分解を不断に引き起こるをえ

ないに規定され、きわめて政治危機と結合して発現する。しかし帝国主義列強の生産構造の同質、平等での各国内の

危機を緊急化し、永続化させているのである。代別強力の法定的相互協調監察が統一市場内

⑧ 現代帝国主義の危機の構造は二次大戦後の統一市場再建の性格に規定されている。二次大戦を経て強力な発展をとり、米帝が基軸となり、統一市場が再編され、ドル圏の米帝が諸列強にドル敵

布を行いヨーロッパ、日帝の再編を支えた。以上の下部構造に結合して、あるいはこれを証するものと

して、NATOの安保が米帝を軸に形成された。帝国主義の不均等発展がもたらすIMF危機構分断の危機

へ89年以降、ドル危機、ホンドリフラン危機として表現されていることを不断に内省しつつも「労働者」国家の存在に規定され、再強へ抗争をストリートに政軍事化せず、経済

的枠内にみせとめられマキド。しかし、この過程を保証したものは、米帝に不均等に先行した超重工業化（技術革新の波）と西独、日帝が吸収し追いつ

いて行く過程、即ち世界資本主義の生産構造の異質的構造が同質的構造に平等化していく過程だ、下からである。このことがマルジョアジーが恣意的対応ををもって統一

市場へ分断のひまがばしをしつつもなおかつ西欧日帝に於て設備投資主導型の高成長を保障し、先進国間水平

分業を拡大させてきたのである。しかし45-65年をもち、この過程は終焉し今や、帝国主義諸列強は、同質化し、均質化し、危機を内包している。

⑨ この均質化し、永続化した危機の中で各国内部で社会主義体制という形式を固定し、主要敵「米帝」は統一世界市場へ分断を先取りして、市場同拡大し、

とくに為には後進国階級抗争への関与をめぐって始

帝制的支配の確立をもたらすのである。

⑫この様な帝國主義の危機に拍車をかけているのが後進國、民族解放、社会主義革命の波である。ベトナム革命も頂点とする後進國の激効は米帝國主義の市場國を打ち砕き、更に新には侵略と反革命策動にも先制的打撃を予するに由り、帝國主義本國の階級的激動をしいさかす超巨大なインパクトと成っている。更に、今日のアジア、アフリカ中南米の武装解放斗争は、危機の帝國主義を追いつめ、その分ならず、中ソ分裂をひき出し、ソ連の平和共存路線の崩壊を暴露し、更に、中ソを、世界革命の根拠地へ転倒せしめようとする帝国内部と成つて来た。だが、この民族解放斗争も、巨大な生産力を生じ、先進國革命と結合し得る限り、社会主義へ平坦な道を歩むことはできないのである。

⑬⑭に示された反帝國主義の先行的政策的武器こそ反革命同盟「NATO」の担保であり、その再編強化に必要なのは、「労働者」國家と対決し、後進國革命を鎮圧する武器のみならず、フランス五月革命を再びは際然とせしめるように、反革命同盟は先進國階級斗争鎮圧の武器でもあるからである。そして、NATOの「抑圧の再編強化」とは勃興帝國主義の、日帝、西独帝をその政治的地歩を打ち回めるものである。

⑭三プロソックの階級斗争の景場、それに対決し、これを鎮圧する武器である。NATOの担保とその再編強化の紛争、及び危機の帝國主義に迫り打ちこたえ、危機を拡大、増大させている「後進國階級斗争勝利」戦中「ベトナム革命勝利」こそ、今日に力ける三プロソックの人民の共通の任務となればならぬ。帝國主義の「カポレタリアート」は、この共通の斗いと結合して、「自由帝國主義打倒」を唯一展望しうるのである。

⑮以上のような反帝國主義の先行的攻勢に対し、帝國主義國の「カポレタリアート」がベトナムを頂点とする後進國階級斗争、労働者「國家の斗いと結合し、三プロソック人民のNATOの担保紛争、ベトナム革命勝利の意識性をもった斗争を激化させ、帝國主義の一角を打ち破るもたら、帝國主義の同質化し永続化した危機は「一挙に」かつ「同時」に、世界革命の展望を出すので

ある。

⑩我々はここで労働者國家に於いて若干ふれておかげほらぬ。我々が、帝國主義帝國下の過渡期社会に疎外された「労働者」國家に課す任務は次のことである。

⑪カポレタリアート「コミン形」國家の堅持

⑫世界革命の根拠地を

⑬は相互連関的のものであり、本質的に同一のものである。中ソがベトナム人民解放斗争をいかに支援するのかが、ソソク内閣から五の年代平和共存政策は「平和五原則」から脱することにも、同時に、ソソクは「ソソク文化大革命」をいかにやるを之にかつたように、「労働者」國家は帝國主義の包圍下であり、不断に軍事的圧力を受けているが故に、世界革命を指向する指針部の目的意識的指針を必要とする。スターリンは後進國「ソソク」だけでなく「社会主義」に到達し、ソソク誤れる理論の上に、世界革命を放棄し、帝國主義國の共產党にソ連防衛を唯一に任務として、抑つけ、三の年代以後の「カポレタリアート」の斗いを挫折させた。

我々は「労働者」國家の「階級打倒」を掲げ、この階級「抑圧の武器」と化してはいる。「ワルツァワ条約軍解体」を通じて、この武器を世界革命へ向けての「赤軍」へ全人民の武器を再編するのを要求するものである。

⑭以上のようは三プロソック階級斗争を結合させる統一「プロソック」帝國主義諸列強打倒、NATOの「担保紛争」、ベトナム革命勝利」であり、帝國主義の同質化し、永続化した危機の一角を打ち砕いた「内乱」と「世界革命戦争」に転化させ、その勝利に導くために、我々は主体的に、斗いの統一司令部「世界」形をいかに、ソ連を打ち砕くべきである。

水山七〇年安保斗争を世界革命への飛躍とせよ

達成された兵産主義同盟の任務はオーに、安保一N A T O 粉砕、ヴェトナム革命勝利、世界一國同時革命の最前衛として、全世界プロレタリア革命軍と共に闘い抜き、国際スターリン主義、社会民主主義を打倒しつつ、世界革命の一環としてカゴロ独を實現することである。オニは、日本革命を世界印通刺生産一上M F 解体過程に規定された日帝のアジト米兵、日米共同軍事行動一上F 規定された日帝の一体的轉換の時点と設定しつつ、カゴロ独への永続的闘いとしての現任的カゴロ独運動を闘いとするのである。

オニは、今やその真口中にある70年斗争を(1)に、これを沖繩の派兵一核武装、日米共同軍事行動前線基地化阻止として闘いぬぐことである。具体的には、沖繩一本上二体化一核付反戦阻止を闘いぬぐことである。具体的には沖繩一本上二体化一核付反戦阻止の闘いを、米軍基地撤去、米軍政打倒斗争と結合し日沖米人民による安保粉砕斗争のもとに結合しつつ闘いぬぐことである。

オニは、一切の議公主義、平和主義を粉砕し、日本の武装蜂起の内実型を中央権力斗争一マッセンストライキと設定し、なかる方向にむけたソビエト運動として實踐するにである。

オニは、70年斗争を、同盟下の労働運動右傾化に對する階級斗争として實踐し、それをヒュースト革命論、取捨自主管理論、反台戦論等、あるいは労働組合の強化一般としてではなく、対権力斗争と、形勢斗争一工場占拠斗争を階級的に結合したソビエト運動として闘い抜き、その反面統一戦線の中核を兵産主義青年同盟を軸とするにではなく、階級的に結合した階級闘争は、二の二の二のみ可能である。

オニは、かゝる総体をもちて70年代にカゴロ独を實現し、全帝國主義、「労働者」一家、後進國の解放の先頭に立ち、革命的、政治的、軍事的に、なかる世界カゴロ独一兵産主義への発展に向けて日本プロレタリアートを前進せしめる為の先頭に立ちなくてはならない。

(1) 安保一N A T O 粉砕 ベトナム革命勝利と 国際階級斗争

当面する国際情勢の特徴は、E M F 危機に後進へ飛ぶ世界帝國主義の解体的危殆と、各口帝國主義の軍事的政治的形勢一反動化、スターリン主義のソ連派(米ソ平和主義)中共派(同革命論)自主独立派(一國主義と議公主義)への分解、全世界革命斗争一革命党派の階級的進である。

オニに、帝國主義世界は、オニ次帝國主義戦争、十二次帝國主義戦争をもちりしたと同質的、危機一世界史上三度目の分割戦に入った。二はは過剰生産強権一再分割戦の激化一国際通貨体制(E M F)解体をカゴロ独のほせたものとして、その基礎にあるものは一九九〇年と同じである。しかしながら先進一國獨り発展、アメリカ帝國主義の商品市場、資本市場の位置の变化を、支配階級しつつ、過渡期世界に規制された危機の形態、支配階級の危機の解決形態は、それと異なるものとして、矛盾を累積しつつ、永続的ものとしている。具体的には、

- ① E M F をてことした危機のひきのほしと、なしく、フレックシブル化、急激管理の連発的波及(ポンド、フランス、ドル)
- ② 独、政策の統制至者への転化(所得政策)
- ③ 財政政策(再分割戦への法制性)対「労働者一家」
- ④ 国際階級斗争への共同反革命内面的統一した新帝國主義(面独、日本)の対欧、対東欧、対中、対中反革命軍事形勢と、米帝の巻き返し、英仏の対欧、東欧反革命軍としての位置へむけた国際反革命同盟の反動的再編
- ⑤ かかる戦争、統制至者のフロク化、国際国内反革命に向けたフランスを内包した権力再編、以上四点(一)のニクソン、佐藤、ドゴール反動、イタリイ危機の性格は二のよつな、次の全面的な反革命戦争、フランス革命前至者への過渡的性格を持つものである。

オニに、二はは帝國主義各口の危機に規定され、国際階級斗争に「労働者」一家に波及し、ベトナム反戦斗争より自口帝國主義打倒、安保一N A T O 粉砕、ベトナム革命勝利の闘いへと発展しつつある。

